

(編集後記)

論文十二編、翻訳・訳注四編が寄せられ、平成二十二年度の『人間文化』も無事刊行の運びとなった。研究の成果をお寄せいただいた所員の方々に感謝申し上げる。今年、本学の文学部は創設四十年をむかえ、その付属機関である人間文化研究所の紀要『人間文化』も第二十五號という一つの節目を刻むことになった。昨今の経済をめぐる状況ゆえに、世間は「実学」への志向をさらに強め、また「多様化」という婉曲な表現で語られる、大学生の学力や教養の「低下」によって文学部をめぐる状況は予断を許さなくなっている。しかし、法律、経済、政治、そして自然科学や医学など、その成果が世に喧伝される傾向にあるこれらの学問の根底にあるのも、人間の精神の営みであることを我々は忘れてはならないだろう。四半世紀の歴史を刻んできた『人間文化』を、今一度ひも解いてみると、古さを感じさせない諸先輩方の知見にしばしば出会う。豊かな心や知力の陶冶をめざす文学部で作りに出されるのは(例外もなしとはしないが)、息の長い論考であることが多い。またそうであるべきだ。このような、言わば「賞味期限の長い」考察を生み出し、それらを尊ぶ場が、虚しい学問の場であるはずはない。

(松崎 博 記)

人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 第25號

平成22年9月10日印刷
平成22年9月20日発行 (非売品)

編集兼発行者
愛知学院大学人間文化研究所長 林 淳

〒470-0195
愛知県日進市岩崎町阿良池12番地
電話 0561 (73) 1111 (内線1875番)

印刷所 株式会社 あるむ